

# 戦国自由帳 (第三稿)

十勝亜子 原案 瑞浪高校演劇部 作

## 登場人物

A	2年4組女子高生	田中佳乃	(織田信長)
B	2年4組女子高生	水島千夏	(天草四郎)
C	2年4組女子高生	千葉春菜	(武田信玄)
D	2年4組女子高生	只越由紀	(上杉謙信)
E	2年4組男子高生	松本肇	(坂本龍馬?)
F	2年4組女子高生	香川志織	(徳川家康)
G	2年4組女子高生	北野カンナ	(豊臣秀吉)
H	2年4組女子高生	瀨瀬茉莉	(真田幸村)
I	2年4組女子高生	児玉さやか	(伊達政宗)
J	2年4組担任	白石千鶴子	
K	校務員	加木屋恭一	

軽快なMEと共に幕開け。大黒を引きホリ不使用。照明明るい。学校の机と椅子が9組並び、下手側に教卓。幕が上がりきると同時に、上手から、AとB、話しながら入ってくる。

- A ねえ、千夏、まじで言ってるの？
- B まじまじ。
- A ほんつとに頭大丈夫？
- B ちよつと佳乃、それ、親友に対して言う言葉？
- A 親友だから心配してんでしょ。
- B 親友だったら信じてよ。
- A 信じれるわけじゃないじゃん、めっちゃめっちゃ朝早くにいきなり電話で、「ねー、私、天草四郎になっちゃった。」
- B しょーがないじゃん、なっちゃったもんはさー。
- A いや、なっていないから。
- B なってるんだって。なんか今朝、「あ、私、天草四郎だ。」って、はっきり分かったの。
- A あんたのどのへんが天草四郎よ。だいたい天草四郎って誰なのか知ってるの？
- B 江戸時代の人。
- A 正確には、寛永年間の人ね。天草四郎時貞(ときさだ)。徳川家光の頃に、今の熊本県天草・島原地方の庄政にあえぐ農民たちが一揆を起こした。この地はキリシタン勢力の中心地だったから、彼らは信仰を基に結束したわけ。このキリスト教徒たちの首領と仰がれたのが、弱冠十五才の美少年、天草四郎。彼は、空飛ぶ鳩を招き寄せて、手のひらの上で卵を産ませ、その卵の中からキリスト教の経文を取り出したり、島から島へ海の上を歩いたりといった奇跡を起こしたと言われている。
- B はいはい。さすがは歴女の佳乃様。でも教えてくれなくてもいいから。島原の乱で農民たちは、島原城の南、原城(はらのじょう)にたてこもって、十二万の幕府軍を相手に四ヶ月もの籠城戦を繰り広げた。

- A え…、なんで千夏。絵ばっか描いてる人が…。すごい。
- B すごくないって。本人なんだから。
- A 本人って…。え？　なんで自分が天草四郎だって思うわけ？　ゴッホになるぞ！とかなら、まだ分かるけど。
- B だから願望とかじゃなくて、今、現にそうなんだって。
- A どうしちゃったの、ほんとに…。で何？　こんな早く学校来て。
- B やらなきゃなんないことがあるの。
- A ……何？
- B えーと、まずねえ、佳乃、あんた私のパードレになって。
- A パードレ？　えーとキリスト教の司祭…要するにお坊さん？
- B さすが、よくご存じで。
- A なんで私が司祭？
- B ま、とにかく必要なのよ。
- A 何に？
- B まあ、細かいことはいいじゃん、パードレ。
- A なんかパレードみたいだけど。
- B あー、なんならパレードでも。
- A こだわれよ、そこは。
- B 希望は最大限尊重するのが、天草流。（茶碗の中をかき回してAに渡すポーズ）
- A 茶道じゃないでしょ。
- B というわけで、パレード。
- A パレードに決定？
- B いよいよ始めようか。
- A 何を？
- B 祈りだよ！

**ME。** 舞台青くなり、真ん中に上から照明。中にB。Aはおたおたする。

- B （おごそかに）エロイムエッサイム！　エロイムエッサイム！　一緒に。
- A え？
- B エロイムエッサイム！
- A エ…、エロ？
- B そこで切るな。
- A ……エロイ？
- B まだ短い！　エ・ロ・イ・ム・エッ・サ・イ・ム！　エロイムエッサイム。
- A エロイ、むさい、一切合切？
- B もーっ！　佳乃、やる気あんのっ？

照明戻る。

- A (啞然) ないよ！ ナノレベルまでないよ！
- B いいっ？ ちゃんとやらないと…。
- A …やんないど？
- B もういいい。
- A もういいって、どういうこと？
- B (涙ぐんで) いいから、私のことはほっといて！
- A なんで悲劇のヒロイン？
- B どうせ私なんか、親友にも裏切られて。
- A 裏切ってないって！
- B ほんと？
- A ほんとほんと。
- B じゃあ、真剣に祈って。
- A 結局そこ？
- B いい？ 「エロイムエツサイム、エロイムエツサイム、我は求め訴えたり。」これを、願いが聞きとどけられるまで繰り返すから。
- A 願いつて？
- B 後で分かるから。
- A 後？
- B いくよ、せーの！

再びME。照明、さっきの青舞台+サスの状態に戻る。

A B エロイムエツサイム、エロイムエツサイム、我は求め訴えたり。(繰り返し)

だんだんMEが高まってきて、左右からSSが徐々に強くなる。A、戸惑いつつも、Bと一緒に祈りを続ける。突然、MEストップ。照明戻る。

- B …願いは聞き届けられた。
- A 聞き届けられた？
- B みんなが少しずつやってくる。
- A みんなって？ 誰？
- B それはこれからのお楽しみ。

暗転。不思議なME。暗い舞台の中央に、光の玉が現れる。(百均の蛍光剤を仕込むボールを使用) 一つまた一つと現れ、七つまで増える。少し辺りを浮遊した後、上手下手に素早く消える。MEも消える。溶明。上手から、クラスメイトがぞろぞろと入ってくる。

- F おはよー、茉莉ちゃん。
- H おはよー。
- B 今日の英語って小テストあったっけ？

- F こないだやったから、次は木曜日。
- B あー、そうだった。
- G さすが、室長。
- D あーもうむかつく。
- C どした、由紀。
- D 春菜、聞いてよー。校門でピアス取られたー。
- C あー。
- G 誰に？
- D カメ。
- C 亀谷（かめがい）かあ。なんか、ぱっと気がつくよね、あいつ。
- D そうなんだよねー。
- C 髪の毛、こう（耳が見えるように上げる）やられたわけ？
- D それはこの前見つかったからさあ、盲点突いてみたんだけどー。
- G 盲点？ ぶすつと？
- C カンナ、ぶすつとは突かねーよ、盲点は。
- G じゃあ、どんな音？
- C 音しないから。で？ どこにピアスしてたわけ？
- D 鼻。
- C 丸見えじゃん！
- D だからー、かえって気がつかないかなーって。
- G なるほどー。
- C 納得すんなよ、お前も。ここに付いてて気がつかないはずないだろうが。
- D だからそこは、敢えて鼻くそっぽく…。
- C 鼻くそ？
- C あー、もうショック。帰ろっかなー。
- G なんかさー。
- D ん？
- G イメージ違くない？
- D 何が？
- G 高校生活。入学する前とさあ。
- D あー。
- C 言ってる。
- D なんていうの？
- C 自由！
- G そう、自由！ さすが春菜、漢検準2級！
- C 準2級って微妙だし。
- G フリーダムよ、フリーダム！
- C 思いつき化粧して。
- D 口紅べたあー！
- C マスカラばっさあー！

- G アイラインがりがりがり…!
- F なんか痛そうだね。
- H うん。
- D おしゃれも。
- G 超ミニスカート！ パンツもろ見え！
- C マニキュア！ もう手なんか使えない！
- D ピアス！ 体中穴だらけ！
- F 人間としてどうよ、それ。
- H たしかに。
- G 素敵な出会い！
- C っつて、期待して入ったら…、
- D クラス唯一の男子は…。

C D G、一番後ろの席のEに注目。食い入るように漫画を読んでいるが、視線に気付いて。

E え？

C D G あれだし！

E 何何？

D、Eの漫画を取り上げて。

C 何これ？

E あ、ちよつと…。

D うわあ、もろに萌え萌え。

C 肇、こういうの好みなの？

E あ、好みっていうか…。

C 毎日、こんなの読んで「萌え〜」ってしてるんだ。

D そのうち、「萌え」尽きちゃうんじゃない？

C 人は二次元には生きられないのだよ。

D ほーれほれ、これが三次元の女子の腕だ！。

Eをからかっている脇で。

G あー、素敵な出会ってないかなーっ。ねえ、志織、思わない？

F たとえば？

G そうだなー。

C 私の超ミニスカートにときめいたイケメンに告られる！

D マスカラで1.5倍になった眼差しにイチコロの男子から突然のメール！

G 口紅で妖しく塗れた唇に引きつけられて、男がぞろぞろ後をつけてくる！

F ぞろぞろ？

- E 集団ストーリーカー？
- G 夢は人それぞれ！ 肇は黙ってて。
- E ……はい。
- D ……それがどーよ。
- C 校門でいきなり服装チェック。
- D 授業は超退屈だし。
- G かといって携帯使ったら取り上げられるし。
- C 宿題は好き放題出るし。
- D アルバイト禁止だし。
- G もう最悪！
- C イメージ違いすぎ！
- D あーもー、逃げだしたい！
- G 言える！
- C ……ねえ、茉莉ちゃんもそう思うよね。
- H え？ あー…。
- D 茉莉ちゃんは違うって。心底まじめっ子だし。
- H えー、そんなこと…。
- G (Hの机上のノートを取り上げて) あ、これって、あれじゃない？ 東大生のノート？
- C 東大？
- D え、茉莉ちゃん、東大行くの？
- H ちがうって。罫線にドットが打ってあってきれいに書けるってだけ。お母さんが勝手に。
- C 何？ 教育ママ？
- H 違うけど…。でも分かるよ、自由が欲しいって。めっちゃ分かるって。
- C やっぱりー？
- B** がつかつか近づいて。
- B だよねーっ。
- D ……いきなり入ってきた。
- B もしさあ。
- C ……何？
- B 今言ってたみたいな自由が手に入るんなら。
- G 自由が手に入る？
- B いろんなことだってする、みたいな感じ？
- C あー。
- H そりゃねー。
- G 私はするな。
- F そう？ どんなことでも？
- G だって志織、自由よ自由！
- F そーかー。

- C だよー。
- D うん、そうだね。
- B やっぱり？

チャイムの音。同時に、担任J、下手から入ってくる。

- J はい、エブリワン、シツダウン、プリーズー。
- F きりーつ。礼。着席。
- J グッモーニン。えーと、今朝も欠席1名…と。
- F 先生、さやかさん、まだ来られないんですか？
- J そうねえ。
- C もうかなり長くね？
- D いつから来てない？
- F 夏休み明けからずっと。

H、複雑な表情をする

- J はい、じゃみんなスタンダップ・アゲン！ 身なりチェックしていきまーす。

ぞろぞろとみんな立つ。その間をJが歩き回って、チェックをしていく。チェックが終わった者から座っていく。

- J はい、額縷さんオツケー、田中さんオツケー、シツダウン。水島さん、スカートちよつと下ろす。掛川さんオツケー、北野さん、スカート短（みじか）すぎ、ひっぱってもだめ、折つてるとこ伸ばして。ロールダウン、ロールダウン、はいオツケー。千葉さん、只越さんもスカート！ なーんか顔白いねえ、サムシング・ライク・ファンデーション？ そろそろ髪も染め直しかなー。あら？ 松本君、何、このファンキーモンキーベイビーなベルト。

E あ、前のが壊れたんで…。

C もてたいとか思ってたんじゃね？

D オタクの発情期？

J つまんないこと言わない。明日これしてきたら、一日ベルトなしで過ごしてもらおうからね。

E …はい。

J いい？ リスンツミー。社会にはルールがあります。高校はそれが守れる人を作るところ。みんなが自分の好き勝手にしたら、世の中はめちゃくちゃになっちゃうでしょ。言ってみれば戦国時代よ。誰も彼も本能のままに、野獣のように殺し合う時代に戻っちゃテリブルでしょう。

SE。Fが、突然苦しみ出し、皆が注目する。苦しみはすぐに終わり、Fはゆらりと立ち上がる。

- J 香川さん、大丈夫？
- H 志織ちゃん、どうした？

- F 先生。
- J 何？ 保健室行く？
- F 戦国時代が、野獣のように殺し合った時代だって、思ってるんですか？
- J え？ いや今そんなことより…。
- F 私たちは、野獣じゃない。人間だったからこそ、あの戦乱の時代を生き抜いたんです！
- J は？
- ME。B、正面に向かって、ロパクで「キターーーーーッ」と言い、机の中から大きな紙に描いた顔文字を出す。その様子とFの顔を、Aが交互に見る。
- F 私の旗印は、「厭離穢土欣求浄土（おんりえどごんぐじょうど）」。欲望に汚れたこの世を離れ、清く美しい世の中を求めて戦ったんです！
- A 「厭離穢土欣求浄土」？ 徳川家康の旗印…
- B （にやり）。
- A え？ 志織ちゃん、まさか…
- G 戦ったってどういうこと？
- J 香川さん、ほんと、どうしたの？
- F 私は、3歳で人質として、自分の家から静岡へ送られました。
- J えっ！
- F しかし、その途中で別の者にさらわれました。
- J えええっ！ ちょっと、そんなこと、私、全然知らなくて…。
- F 先生は私の何を知っていると言うんですか！
- J ごめんなさい。そんな大事なこと、担任として失格だわ。
- F 戦国時代のことだって、何も知らない。
- J そうね、イングリッシュティーチャーだし。いい加減なことを言ったかもしれない。みんな、ごめんなさいね。
- F 分かればいいんです。これからじっくり学んでください。
- J そうね。また教師として学び直すわ。
- F 頑張ってください。私、待つことには自信がありますから。
- A 鳴くまで待とうほととぎす…。
- J あー…、じゃ、1時間目の準備しといてね。今朝はこれで。
- F 起立。礼。着席。
- Jが下手に退場すると同時に、クラスメイトがFのもとに一斉に群がる。
- G 志織、かーっこいーっ。
- C どうしちゃったんだよ、室長。
- F え、私…。
- D 何、私、今日の今日まで志織のこと誤解してたかもしれない。
- G なんか、入学以来のもやもやが全部すーっとしたよね。

- C D うんうん！
- C 志織。
- C D G ありがとう！
- F お礼、言われてもなあ…。
- E でもでも、大丈夫かなあ、あんなこと言って…。

皆が盛り上がる中、BがFに近づいて、手を差し伸べる。

- B ようこそ、2年4組へ。
- F あ、どうも。
- C …何言ってるの、千夏。
- F ようこそって言われてもね。
- B まあね。
- D え？ 志織って転校生だったっけ？
- C なわけないだろ。
- A 千夏、もしかして今朝の祈りって…。
- B お、さすが佳乃。鋭いねえ。
- D 祈り？
- B みんな聞いて。室長を見てて気がついたよね。
- G うううってなったこと？
- B その後。
- H いきなり態度が変わった。
- B そう、あの瞬間ね、室長には霊が降りてきたの。
- G はあ？
- C 千夏、大丈夫？
- B 改めて確認するけど、あなたは？
- F …徳川家康。
- C …徳川家康？
- D え？ 名字変わったの？
- C そういうレベルじゃねーよ。
- D あ、そっか！
- C 分かった？
- D 性転換！
- C ちげーよっ。たしかにそれも大事（おおごと）だけどさ。
- D じゃ何よ！
- C きててんじゃねーよっ。徳川家康って言うてるの！
- D 会ったことないよ。
- C あたしもだよっ！ 昔の人！ 徳川幕府作った人！
- D 食べたことないし。
- C お菓子じゃないって！ 幕府ってさあ、…もうどっから説明すりゃいいんだ！

- A 確認するけど、志織ちゃんは、自分が徳川家康だって思ってるわけね。
- F そう。
- C ちよつと、室長まで何ふざけてんの？
- G そんなノリよかつたっけ？
- F ふざけてんじゃないの。本当なんだよ。
- B そして、私は天草四郎時貞。今朝、この体に降霊しました。
- H こうれい？
- B 霊が降りてきて乗り移るってこと。
- H ああ、降霊。
- G ってことは、え？ あんたたちは志織でも千夏でもないってこと？
- B そうでもないんだなー。
- F なんかねえ。うまく言えないけど、絶妙にブレンドされてる感じ？
- A ブレンド？
- F ほとんど私は私。だけど、自分が徳川家康だっていう自覚は全然違和感なくあるのよ。
- A 千夏も同じわけ？
- B そう。
- H じゃあ、天草四郎が家康の霊を呼んでこの体に降りさせて、霊と元の人格が混じってるってこと？
- B うん！
- C 軽いな。
- A 結局さあ、今朝、何て祈ったのよ？
- B 歴史に名だたる英雄の霊たちよ、再びこの地に降り立ちたまえ。そのために、2年4組の生徒たちを捧げます。
- C おいっ！
- D 何勝手なこと祈ってんの！
- H じゃ何？ 私たちにもだんだん降霊するかもしれないってこと？
- B そうだね。
- C なんでそう軽いんだ！
- E ちよつと、やばいんじゃないの、それ？
- H 英雄って誰？
- D S M A P？
- C 人数多いし！ 生きてるし！
- D じゃ、尾崎豊。
- C ・・・、つつこみにくい所、挙げてきたなあ…。
- F 一人目がさあ、徳川家康だから。
- H 歴史上の人物ってこと？
- F …かな？
- G でも、勘弁してよ、何それ、降霊って。
- B でもさ、でもさ。今朝、みんなが言ったこと覚えてる？ 「自由が手に入るならどんなことでも」って。
- G あ。
- C そりゃ、言ったけどさあ。

- D まさかこんな。
- B 見てたよね、室長がだよ、この優等生が白石先生を一人で撃退しちゃったんだよ。
- C あ。
- D そっか。
- F もし降霊した人が増えたら…。
- B どうよ。
- E みんな、先生に対して強く出られるってこと？
- C じゃあ、スカート短くし放題？
- D 化粧し放題？
- G 夢みたい！
- B どう、これでも文句ある？
- C D G ないない！
- B あー、でもごめんね。志織ちゃんには何の断りもなく。
- F ま、いろいろ背負い込むのは慣れてるから。「人の一生は重き荷を負うて長き道をゆくがごとし。」
- 皆がざわつく中、下手にAがBをひっぱっていく。

- A どういうこと？
- B どういうことって？
- A みんなして降霊したら、化粧し放題とか。
- B そういうことじゃん。
- A うそつけっ！
- B 何がうそよ。
- A あんた、身なりとか化粧とか、別にこだわってないじゃん。浮くのが嫌だから、ちよつとちよつとスカート短くしてるくらいでしょ。
- B いやー、でもやっぱり女の子はかわいくしたいかなーって…。
- A それが家康を降霊させてまでやること？
- B うん。
- A うそ。ほんとは何考えてんの？ 白状して。
- B 白状ったってさあ…。

チャイムが鳴って、下手から再びJ登場。1時間目は英語の授業である。

- F 起立。礼。着席。
- D ねえねえ、「礼」って別の漢字が浮かんじゃわない？
- C うるさいよ。
- J ハロー、エブリワン。
- 皆 ハロー、ミス白石。
- J ハウアーユー・トゥデイ？
- 皆 ファイン・センキュー。アンジュー？

J アイム・ファイン・センキュー、トウー。じゃ、テキストページ25、レッスン5の続きから訳します。担当は？

E はい。

J じゃよろしく、ミスタ松本。一度音読してから訳してください。

E (英語の本文を音読していく)

SE。突然、Gが苦しみ始める。

J また？

G (苦しみから解放されて) : どうなってんの？

J 大丈夫？

G (Eの読んでいた教科書をはたき落として) 何、これ？ 何やってんの？ あたしがバテレン追放令出したの、忘れたの？

J は？

A またキターツ。

Gが教科書を破ろうとするので、Eが慌てる。Jが止め、HとFも入ってもみ合いになる。

D ベテランを追放すんの？

A バテレン！ キリスト教徒のこと。

B キリスト教徒の追放令出したってことは…秀吉だ！

D 誰？

C 豊臣秀吉だよ。太閤秀吉。

D 何やった人？

C えーと…、ちよつと佳乃、助けてよ。

A 織田信長の家来だった人で、天下統一を成し遂げたの。晩年は海を越えて朝鮮出兵もした。

C だってさ。

D 韓流ブームを作った人ってことね。

A 逆だよ！ 向こうですごく恨まれてんの。

D あ、だからS M A Pのコンサートが中止になったんだ。

A それは尖閣諸島問題！

SE。突然Cが苦しみ始める。もめていたメンバーも思わず手を止めて注目する。

C うううっ。

D え？ 春菜？ どうしたの？ 大丈夫？

J ちよつと、そっちもなの？ ふざけてんじゃないでしょうね？

C、苦しみから覚める。

- C ちよつと千夏、いい加減にしてよ。これ、ハンパなく苦しいじゃん。  
B ごめんね。  
A 春菜ちゃんは、誰？  
C 来たよー、武田信玄。  
B おーっ！  
D え？ 誰？  
C 武田信玄。  
D あ、「めっちゃいけ」とか出てる、サックスも吹く…  
C それ、武田真治。  
D じゃ、女好きのサッカー…  
C 武田修宏（のぶひろ）。  
D 3ね…  
C 武田鉄矢。  
B つっこみ早っ！  
C (ME ポーズ) 疾(と)きこと風のどし！

動きの止まっていたJがつかつかと近づいてきて。

- J ミス千葉！ ワッターユー・ドゥーイン？ 授業中です。いい加減にしないで。  
B あの先生、春菜はふざけるわけじゃ…。  
J 謝りなさい。アポロジャイズ！  
C ! やだね。  
J どうなっちゃったの、あんたたちは？

SE。いきなり、Dが苦しみ始める。

- J ミス只腰まで！ もうひっかかりませんからね！

J、冷ややかに見ている中で、Dが立ち直り、Cを見るなり、

- D あーっ！ 信玄！  
C : 謙信か！  
A げっ！  
B 何？  
A 上杉謙信。信玄とは川中島で五回も戦った宿敵同士。  
B やばいじゃん。  
D このーっ！

DがいきなりCにつかみかかる。

- J (Eに) 男でしょ。なんとかしなさいよ。  
E えー、無理無理。  
J はい、がんばって！

Eは押し出されて、二人の前に出る。

- E あ、あのー。  
C 何？  
E けんかはよくないかなーって。  
D うるさい！  
E あ、でも先生がやめなさいって…  
C だから？  
E だから、目上の言うことは聞かないと…  
D いいんだよ、そんなこと。  
E え？ どうして？  
C D 下剋上だよ！

E、すぐすぐと去る。再びつかみかかろうとするCDを、みんなで引き離す。

- F ちょっと、冷静になろうよ、二人とも。  
C ほんつとにこいつ、むかつくなあ。  
D それはこっちのセリフ！  
G まずは話し合いでいかない？ 今、現代だし。  
D 聞いてよ、こいつのうざさ、はんばないんだから！  
C うざい？ あー、川中島で負けたこと、まだ根に持ってるの？  
D は？ ちょっと何言ってるの？ 川中島で負けた？ 誰が？  
C 誰がって、あんたがでしょうが。  
D む・か・つ・く！ あれはどうみたってうちの勝ちでしょう。  
C 何を！

ME。以下、スローモーション。Dは掃除道具入れから箒を出して打ちかかる。Cはちりとりで受け、ポーズが決まったところで二人見得を切り、「チョーン」と歌舞伎風の木が入る。

- G ちよーつと待った。  
F 暴力はやめない？  
E うん、巻き込まれると危ないし。  
D やめる？ 人がせっかく歴史的な一騎打ち、再現してんのに。  
B 歴史的？  
A 川中島の四回目の戦いでね、謙信が一人で信玄の陣地へ駆け込んで、討ち取ろうとしたのよ。

- B へえ。大胆。
- C 何をスタンドプレイやらかして自分に酔ってんの、このナルシスト！
- D ことごとくいらつくくなー。いい？ 知ってる？ 「信玄餅」ってお菓子があんの。世界一食べづらいお菓子。容器の中にきな粉が満タンなのに、その上にわざわざ黒蜜かけて、これが容器からあふれるし、ついてる楊枝で食べようとすると落ちてきな粉だらけになるし、かといってがばつと一口で食うとむせて鼻からきな粉がぶはつ。
- C 「おいしいじゃん、「信玄餅」。全国的に有名じゃん。「信玄餅」はあるけどさあ、「謙信餅」ないっしょ？ うらやましいんじゃないの？ だいたいさあ、新潟人、あんたのこと覚えてないよ。みーんな田中角栄にしか感謝してないんだから！
- D このーっ！

二人が再び、とつくみあいを始めそうになるので、クラスみんなで押しとどめようと大騒ぎになる。Jは頭をかかえる。騒ぎの中、ゆっくりと青転。AとBだけ残して、皆退場。溶明。

- A どうすんのよ、授業めちやくちやだったじゃん。
- B いやあ、ちよつと予想外の展開したなあ。
- A だいたい、なんであんな仲のいい二人に、信玄と謙信って宿敵の霊が降りんの？
- B うーん。その人にふさわしい霊が降りるのかどうか分かんないから。ってか、そもそもあの二人って、ほんとに仲がいいのかなあ。
- A いつつもつるんでるけど？
- B ほかにつるむ相手がいないからだけだったりして。
- A えー。
- B うちらみたいに。
- A ちよつとー。
- B 冗談だって。でも、女子ってそういうところあるよねー。
- A 高校入って、特にそういうとこ目立ってきたよね。
- B しがらみ多いよねー。
- A まーねー。
- B 何にせよ、たった一日で四人も降霊するとはね。
- A いい加減、目的を教えてよ。
- B どうしよっかなー。
- A 何よ、ここまで振り回しといて。

間。

- B あのさ。
- A うん。
- B 私、美大志望やめたから。
- A …え？ 小学校の時からずっとイラストレーターになるって。
- B お父さんがね、こないだいきなりリストラされた。

- A こないだって…。
- B 先月の終わり。ごめんね、言わなくて。
- A それは…いいけど、でも。
- B なんかも外資系って、容赦ないんだって。で、趣味みたいなことを高い金出してやらせてやれないって。趣味…。
- B そう、両親から「趣味」って言われた。あれはちよいきつかったかなー。
- A ……。
- B なんかさあ、あたしたち、小さい頃から「頑張れば何でもできる」とか言われて育ててこなかった？
- A ……そうだね。
- B そのわりにさあ、できることって少なくない？
- A そう…かな。
- B 子どもの時さあ、お絵かき帳とか自由帳とかあったよね。
- A 千夏、昔っからすっごいうまかったよね、お絵かき。
- B あれ、真っ白だったじゃん。何をどう描いてもOKみたいな。
- A まさに「自由帳」だね。
- B でもさあ、今はすっごく細かい罫線入ってるノートにさあ、毎日毎日かりかりかり…。
- A あー、ひたすら黒板写して。
- B 気がついたら、私、自分の一番大事なことで、罫線引かれてたんだああって。
- A 千夏…。
- B でね。佳乃にも言えないで、もやもやもやもやしてたら、昨日、いきなり降霊したわけ。
- A 天草四郎が？
- B うん、四郎が。
- A 予告もなく？
- B うん。いきなり四郎。
- A その、美大のこととき、降霊って関係あるの？
- B 分かんないねー、そのへんは。でも、家康だよ？ 信玄だよ？ なんか変えてくれる気がしない？
- A 何か？
- B うん。佳乃が言う通り、別に身なりなんか自由にしたいわけじゃない。でも、先生とぶつかることとか怖がらないで、言いたいことが言えたら、なんか、なんかがさあ。
- A 変わるって？
- B うん。
- A どんなふうによ？
- B わかんないけど。
- A ふーん。
- B つきあって、くれる？
- A しーないのー。
- B さすがパレード。
- A それやめて。

上手から、K登場。作業着を着た校務員さん。

K おーい、もう帰らんと暗(くら)なるぞー。  
B あ、おじさんお疲れ様。  
K おー、ありがとう。娘はそんなこと言ってくれんでうれしいわ。ほな、気をつけて。  
B さよなら。  
K さよなら。  
B あの。  
K ん？  
B おじさんって、なんでこの仕事してんの？  
K あー、長いこと勤めとった鉄工所がだめになってなあ、ま、ほんで職業訓練所ちゆうとこにしばらく通って、その伝手(つて)でここを紹介してもらったんやわ。  
B ふーん。  
A 大変ですね。  
K まあ、ほんでも、働けるっちゆうことはありがたいことや。おかげさんでなんとか体も丈夫やし。  
B …そう、なのかな。  
K ほな、暗ならんうちに。  
A ありがとう。さよなら。  
K さよなら。

青転。三人退場。入れ替わりに下手にサス。中にHがいる。携帯をかけている。

H もしもし？

上手にサスが点く。中にI。顔に包帯をして左目が隠れている。セーラー服姿。

I もしもし。  
H 今日はどうしてた？  
I あいかかわらず、かな。  
H けがは？  
I 一個治って、また新たにとって感じ。  
H 新たに？ どこ？  
I 目。  
H 目！？  
I 大丈夫。あざが出来ただけだから。  
H あざ。  
I ありがとね、茉莉だけだ、心配してくれんの。ってか、覚えててくれんの。  
H そんなことないって。  
I あるって。  
H 何言ってるの。今朝だってね、みんな、さやか早く来ないかなって。  
I みんな？

H うん。  
I みんなって誰？  
H 志織ちゃんとか。  
I ああ、室長ね。お役目ご苦労さん。  
H そんなんじゃないって。  
I ……今日さ。  
H うん。  
I お母さんと話してね。  
H うん。  
I 逃げることにした。  
H 逃げる？  
I 今日、民生委員っていう人たちが来て、いろいろ聞かれて、それでお父さんがどっか連れてかれた。  
H じゃ、今いないの？  
I 三日くらい帰ってこないって。その間に。  
H え？ じゃあ…。  
I うん。ごめんね、心配してくれたのに。茉莉にも引越し先教えちゃいけないって言われて。  
H ……そっか。  
I ……。  
H なんてこんな…。  
I なんてなのかなあ。みんな、当たり前前に家族があって当たり前前に学校に来てるのに、なんで私だけ…。  
H さやか…。

青転。ME。教室が次の日の様子に変わる。生徒らが思い思いの場所に位置する。溶明。昼休みの教室。

G 今日、春菜、誕生日だよねー。  
C あ、メールありがとー。  
F 誕生日メール？  
C ほらほら、午前0時ぴったり。  
F すごーい。  
B あー、私も送ればよかったー。  
F メールはしなかったけど…、ジャン！  
C え？ 私に？  
F おめでとー。  
C ありがとうっ。室長がくれるなんて。嬉しい！（開けて、大きなガチャピンの空気人形を出す）  
E あ、かわいい。  
E 皆は？  
E あ、ごめん。  
F これさあ、思い出さない？  
C なんだっけ？  
F こうやって…。（ガチャピンをCに背負わす）

- C あ、母衣（ほろ）かあ。  
B ほろって何だっけ？  
A 戦場でね、遠くからでも自分の軍が目立つように背負った目印の袋みたいなもん。  
B へえ。  
G 実は私も。  
F わ、すっごいハートマークの袋。  
C もしかして、私、告られてる？  
G 秀吉の愛を受け止めて。  
C （開けて猿のぬいぐるみを出す）おお、猿。  
B 私も。  
C ええっ。なんだろうー。（キリストの絵が描かれた板を取り出して）。壁掛け？  
B （うれしそうに）踏み絵。  
C あー…。みんな覚えててくれたんだ。うれしー。

背後で咳払い。皆が振り返ると、Dが紙袋を突き出している。

- F え？  
G 由紀？

皆が沈黙する中、Dがつかつかと近づいてきて、Cの机の上に紙袋を置く。

- D …おめでと。  
C いいの？  
D （うなづく）  
B え？ どういうこと？  
A うーん。  
C …ありがとう。って、重っ！  
G 何？

C、袋の中から、ビニール袋に入った白いものを出す。

- G これ？  
F …塩？  
G 何、やっぱり嫌がらせ？  
A いや、あのこれは…。  
C ありがとう!!!  
G ええっ？  
F 喜んでる？  
C けんちゃん！  
D …しんちゃん！

感動的なME。二人駆け寄ってひしと抱き合う。

- A しんちゃんって言うのと、別物みたいだね。
- B でも、なんで塩？
- A 知らないの？ 敵に塩を送るって話。
- B 相撲？

A 信玄と敵対する国が、信玄の国に対して塩の輸送をストップしたことがあったの。人間は塩がないと死んじゃうでしょ？ 山国の信玄はすごく困ったんだけど、謙信はそれを聞いてね、「あなたとは敵だけど、勝負は正々堂々と弓矢で決めましょう」と言っって塩を送り届けたんだよ。

- B いい話じゃん。
- C 昨日はごめんね。
- D 私こそ。
- C 実は五百年前からけんちゃんのこと、嫌いじゃなかったんだー。
- D うん、あたしもしんちゃんがすごいって分かってたよ。
- C そっかー。
- D ねえ、今日の帰りさあ、プリクラ撮りにいかない？
- C あ、いいねー。
- D あたし、思いつきり変顔で撮る。
- C あ、ねえねえ、昔みたいないなひげ描かない？
- D うんうん。で、しんちゃんが「風林火山」って書いて。
- C ナーイス！
- F 軽すぎだろ、いくらなんでも。

さきほどのハートの紙袋を、謙信が取り上げる。

- D ねえ、この袋だけもらっていい？
- C どうすんの？
- D あー、なんかあつちへ戻る時にさあ、土産に持っつたら喜ぶかと思っって。
- C 誰が？
- D 直江兼続。
- C あいつ、かぶるんじやね？
- D こんなふうには？

D ハートのバッグを頭にかぶる。その様子を見ながら、

- A 結局、仲が良かったってことだね。
- B まあ、春菜と由紀も、信玄と謙信もってこと？
- H っっていうか…。
- A B え？

H あ、ごめん。  
B いいよいいよ、何？  
H はつきり言いたいこと言い合ったからじゃない？ 初めて。  
A B あー。  
A 茉莉ちゃん、鋭いねー。  
H 別にそんな。  
A いやあ、なんか本とか読んでても、クラスのことちゃんと見てんだね。  
H そんなことないって。  
A あるよ、絶対。  
B …さてと。  
A 何？  
B 機は熟したりってとこかな。  
A は？

**Bはつかつかと舞台中央に出て、パンパンと手を打ち、注目を集める。**

B はい、みなさん、ご注目ください。  
F 何？  
B 既に降霊した人はもちろん、降霊していない人も、だいたいの事情は分かっているとします。肇君、分かってるよね？  
E あ、これで降霊したのは5人…。  
B 上出来。改めて自己紹介していきましよう。わたくし、水島千夏は、島原の乱の天草四郎時貞。…拍手してもいいよ。(拍手) じゃ、そっちらから順番に。  
F 香川志織は、徳川家康です。(拍手)  
G 北野カンナは、豊臣秀吉。(拍手)  
C 千葉春菜が武田信玄で、  
D 只越由紀が上杉謙信と。(拍手)  
B というわけで、現在このクラスにはこれだけの錚錚(そうそう)たる英雄が降霊していると、こういうことね。  
D すごいね。  
C 無駄にすごい。  
B もしかしたら、この後も増えるかもしれないけど、とりあえず、このへんで自由を手に入れるための作戦について、相談したいことがあります。  
E え？ 僕、おいてけぼり？  
B まあ、まだの人は気長に待ってください。肇君、なんか降りてきてほしい希望ある？  
E もてそうな人！

間。

H 痛々しいほど正直だ。

- B じゃあ、今後の流れとしては…。
- C ちよつと待って。
- B ん？
- C なんで、千夏が仕切ってるわけ？
- B いや、だって、私が祈りを捧げたから、みんなに霊が降りてきたわけで…。
- D だから仕切んの？
- G 天草四郎ってさあ、十代の真ん中くらいで討ち死にしてるよねえ。ガキじゃん。
- B ええっ？ それとこれとは…。
- C たしかに、勝手に降霊させて、勝手に仕切るってどうよ。
- D だよー。
- B なによ、みんなして上から目線で！
- F 上から目線？
- B なんで私がよってたかってそんなこと言われなきゃなんないわけ？ あんたら一体、何様だよ？
- C D G 殿様だよ！
- B あ…。

間。

- F …たしかに戦国大名同士だとさあ、お互いややこしい事情抱えちゃってるじゃない。時代のずれた天草四郎に仕切ってもらうってのもいいと思うけど。
- C うーん。
- D そっかー。
- G 志織が言うなら、それでいいよ。
- F じゃ、千夏、よろしく。
- B そう？ そう？ ありがとう。じゃあ、みんな、集まってくれない？

みんな、Bの位置に集まってくる。

- B 戦国武将がこんなに降霊している今なら、言いたいことが言えると思わない？
- D え？ 先生たちとけんかしようってこと？
- F 昨日みたいな騒ぎはやだな。
- E はい！
- B 肇君。
- E 穏便にいきましょう、穏便に。
- C たまーにはりきって発言したと思ったら、それか！
- E だって…。
- B なんか腰引けてるなー。
- A でも、いざ合戦って時代じゃないじゃん。
- F じゃ。話し合いでもして、意見まとめて職員室に言いに行くってこと？
- G おー、さすが室長の意見。

B うん、それでもいいし。  
D 言いに行くって誰が？  
G そりゃ、みんなでしょ。  
E あ、じゃあ手紙書くとか…。  
C 極力表に出ないつもりだな？  
E だって、みんなって僕も入って…。  
C 当たり前じゃん。  
E え…。

B ねえ。なんかないの？ みんな今せっかく力持ってるのに。

H …歌。

A え？

H みんなで気持ちの表れた歌を歌うってどう？

A 茉莉ちゃんが…。

D 意外。

F 歌かあ。

C あ、でもいいかもね。

G いろいろぐだぐだ言うより、気持ちは伝わりやすいかも。

H でね、私、歌いたい歌がある。

B 茉莉ちゃん、歌いたい歌って？

H えっと…、かなり古いし、ベタなんだけど…

話が継続している様子を見せながら青転。下手にサスが点き、中にHが入ってくる。携帯を押している。やがて通話が始まる。

H もしもし。

上手にサスが点き、中でIが携帯を耳に当てている。

I 茉莉？

H うん。…さやか、あのね。

I 何？

H 昨日の電話さあ。

I うん。

H みんながさやかのこと、心配してるっていうのは、やっぱり正確な言い方じゃない。

I 分かってる。

H でも、みんなが忘れてるわけでもない。

I …そっか。

H でね。

I うん。

H 今日の昼休み、みんなが歌うことになったんだ。

I 歌？ どういうこと？

H とにかくクラスで歌うんだよ。でね、携帯かけて繋ぎっぱなしにしとくからさあ、聞いてくれない？  
I クラスの歌を？

H うん。正直、さやかのために歌うってわけじゃないけど、ちょっとみんなに話したこともあって。  
I うん。

H 私は、さやかに聞いてほしくて歌うから。結局何もできなかったからさあ、聞いてくれない？

I なんか、よく分かんないけど、茉莉が言うなら。

H ありがと。じゃ。

I じゃ。

I のサスが消える。ゆっくりとHは携帯を閉じる。溶明。皆が合唱の隊形に並んでいる。Hはその下手端に並んで、携帯をゆっくり開き、胸に持つ。Bの指揮で「翼をください」を歌い始める。「さんはいつ。」  
まずHが独唱で歌い始める。「このく背中にく」から、四人が増える。「この大空に」からは全員で大合唱をする。盛り上がり声が大きくなったあたりで、下手からJが駆け込んでくる。

J ホワット！？ 何の騒ぎ？

B クラスの気持ちをまとめるために、歌を歌ってみました。

C 心が開放される歌です。

J …開放？ あんたたち、昨日からおかしくない？ とにかく休み時間に騒がないで。

D 騒いだんじゃないやしません。合唱です。

J 合唱でもなんでも。うるさいものはうるさいの。

G えーっ、だって中学の時は…、ねえっ。

D うん。休み時間に歌っていると褒められたよねえ。

E あ…、うん。

B うちも。

J 褒められた？

C 合唱は大事な教育。

D クラスの心をつなぎ、心を解き放つ。

J へえ…。

B 先生、中学で褒められたのと同じことをやって、なんで叱られるんですか？

J そりゃ…、中学で習ったことが間違ってるんじゃないの？

C …はあっ!？

J …というか、中学校では正しかったかもしれないけど、ここは高校なの。高校のルールに従いなさい。

F 先生、本気で言ってます？

J ええ。

G 訳分かんない。

F 先生、人は成長するに従って、自分の意志で行動できるようになる、はずですよね。

J その通り。そのはずよね。

F でも、中学から高校って、それほど自分の意志で自由にやれることの幅が広がったって感じがしないのはなぜですか？

- J 例えば？
- C スカート短くしたくらいで、何でいちいち注意されんの？
- D 十代後半なんだから、化粧とかいいじゃん。
- J そういうのが自由？
- C そう！
- J もっと大事な自由があるでしょう？
- D もっと大事？
- J 自分の可能性をいろいろ探る自由は？ 自分の進路を自分で決められる自由は？
- G あー、そっちの自由かー。
- C どっちかっていうと、あってもめんどい？
- B え？
- D っつか、誰か決めてくれた方が楽？
- J はあ？
- B …とにかく、私たちは自由がないんです。中学で褒められたことさえ叱られて。
- C うちらには無限の可能性があるんじゃないの？
- D この大空に翼を広げ飛んでいきたい！
- J ついさつき、進路なんてめんどいって言わなかった？
- B 私たちの背中には翼が生えているんです！
- 皆 数え切れない無数の翼が！
- J …これ、ミュージカル？
- B 聞いてます？
- J 聞いてます。ええと、あなたたちの背中には無数の翼が生えていると。
- B はい。
- J 本気で言ってる？
- G だって若いんだから。
- J それで飛べるの？
- C もちろん！
- J 無数の翼で？
- B はい！
- J …あのねえ。ここにぶわーっと、ぶわーっつと翼生えてたらどう？ イメージしてよ、この美川憲一のステージ衣装状態。
- 皆 ……。
- J 飛ぶ以前に、どうやって羽ばたくの？ 翼同士邪魔になってしょうがないでしょ。翼はねえ、一対しか要らないの。っていうか、一対しか持てないの。そのたった一対の翼を、高く遠く飛べるように鍛えるのが高校だと私は思ってるけど？ もしほんとにそんなやたらと翼が生えてるんなら、一日も早く余分なのをむしって取ってあげるのが高校の役割。…分かった？

J、皆を見回して、下手に去る。

C なんかな、白石、すごいこと言い放っていかなかった？

- D うん。  
G 教師の言うことか？  
C 信じらんない。  
D でも…。  
C ん？  
D なんか、この辺が苦しいのは…なんで？

青転。溶明すると、皆が箒などを持って教室掃除をしている。

- C あーあ。  
D どした？  
C せつかくあんな力一杯歌ったのにさあ。  
D うん。なんかイメージしてたのと展開がいまいち違うっていうか。  
B 何言ってるの。とりあえず最初の一步じゃん。  
F 最初の一步？  
B 歌を聞かせて、最初の一撃をガツンと。  
G カツンとやられた感じなんですけど。  
B えー、ちよつとー。  
H ごめんね。  
F 茉莉ちゃんは別に悪くないって。  
B そうそう。ナイスアイデアだったと思うよ。  
F 精一杯やったしね。  
B え？ 戦国武将が降霊したのに、歌うたって終わりとか言わないでよ。  
E、掃除をしながら、そちらをちらちら気にしている。時折、空を見上げたりしている。と、SE。突然、Hが苦しみ始める。

- A あ、茉莉ちゃん！  
B あ、ついに来た？

E、激しく動揺する。苦しみから抜けてHが顔を上げる。

- F 大丈夫？  
H ありがとう。  
C ね？ かなり苦しくない？  
H たしかに。  
B それで？ あなたは誰？  
H 真田：幸村。  
A 真田幸村！  
G おおっ！ あたしの味方で最後まで戦ってくれた！ ゆきちゃーん。

- F いやあ、家康から見ても敵ながらあっぱれだよ。天下一のつわもの。
- C え、何、幸村来たの？
- D やー、ようこそようこそ！
- B どういう人？
- A 関ヶ原の戦いでね、お兄さんと敵味方になったの。
- B 仲悪くて？
- A どっちが勝っても真田の家を残すためよ。で、負けた豊臣方の味方をしたのが弟の幸村。
- B 負けたんだ。
- A でもねえ、天才的に戦いがうまくて、関ヶ原でも大坂の陣でも軍師として徳川軍をさんざん苦しめて華々しく散ったのよ。
- B ほう。

皆が大歓迎の中、明らかに動揺しているE。しばらく迷っておろおろしていたが、やがて意を決してわざとらしく。

- E うわあああああつ。
- F 何？
- C ついに肇にも降霊した？
- D 誰誰？
- E (棒読み) ……ここはどこなんだ、…ぜよ。
- G ……ぜよ？
- E 久しぶりの日本は、めっちゃ変わっちゃってる、…ぞなもし、いや、ぜよ？
- G また、ぜよ？
- A もしかして…。
- B ねえ、肇君。誰が降霊した？
- E 坂本…龍馬…。
- C 龍馬？
- D 龍馬っ？
- C ってことは…、
- G 福山！

皆、「きゃー」と言いながら殺到する。

- G ああ、この手の中に福山雅治が！
- C この目に！
- D この耳に！
- F この髪の毛一本一本に！
- C D F G 福山が！
- B 室長まで…。
- A あの一。

D ねえ、なんか言ってる！  
E なんか言って？  
D なんでもいいから！  
E えーと、今日はとてもいい天気ですね、ぜよ。  
D ぜよ！  
E 明日もいい天気でしょうか、ぜよ。  
C ぜよ！  
E ぜよ！  
G ぜよ！  
E ぜよ！  
F ぜよ！  
E ぜよーっ！！  
皆 キャーッ！  
A 茉莉ちゃんまで？  
B 福山恐るべし！  
A だから、福山じゃないでしょ！  
G 歌って！  
E え？  
D 歌って歌って！  
E …ともだちくではくられないこととも…  
C 下手…。  
D 下手なのが福山っぽい！  
A ねえったら！  
B 自由の話は？  
F 何、今忙しいの！  
A あんたたち、根本的に間違ってると思うけど。  
G 何が！  
A だから、肇君に降霊したのは坂本龍馬であって、福山雅治じゃ…  
C いーの、この際！  
H いーじゃん、夢見たって。  
D 次歌って！  
E 愛と知っていたのにく…。  
皆 きゃーっ。

青転。A Bを除く女子たちが去る。溶明。残っていたE、中空を見上げて、にやつきながらぼーっとしている。小声で「はるるがきくたく、はるるがきくたく、どくこくにくきたく」とか歌っている。Bに耳打ちされて、Aが。

A ねえ。  
E …何？

A 問題です。龍馬が妻のお龍と日本で初めてしたと言われていることは？  
E え…、妻と…初めてした？ え？ え？ 言っているの？ あの…。  
A ぶー、新婚旅行です。第二問。龍馬が作った会社の名前は？  
E あ。えーと東インド…。  
A ぶー、亀山社中です。第三問。龍馬が暗殺された宿屋の名前は…。  
E 分かったよ。  
A ……。  
E 僕、龍馬じゃないから。  
B 当たり前じゃん。  
E …ごめん。  
A あの戦国武将のラインナップに、なんで幕末の龍馬を持ってくるかなあ。日本史なめてんの？  
E 許せない！  
E え？ 怒ってるのはそっち？  
B なんで嘘ついた？ 龍馬、流行りだから？ もてたかったの？  
E いや、あの反応はさすがに想定外。龍馬って言ったのはそれしか思いつかなかったから。  
A それにしたって、どうしてあんな嘘…  
E なんてって、田中さんは寂しくないの？ なんかみんなものすごいものが降霊してんの？  
A ええっ？ 降霊してほしいの？  
E だって、みんなが…  
A みんなって…、あのさあ、みんながゾンビになったら、自分もなりたい？  
E そりゃ話しが別…。  
A 同じだって！ てか、そのものじゃん。  
B おいっ。(自分を指さす)  
A 訳分かんない霊にとりつかれてんだよ？  
B そりゃ、そういう言い方すれば…  
A 言い方の問題？  
E じゃ、なんで僕と田中さんだけ？  
A 私は…、パレードだから。  
B よし。認めたか。  
E …は？  
B ま、いいから。あのさ。  
E 何？  
B 肇君、明日休んだ方がいいよ、たぶん。  
E なんで？  
B 勘。  
E ぶーん。  
B あとさあ。  
E ん？  
B せっかく男なんだからさあ、みんなに合わせなきゃとか、そういうのから自由になった方がよくない？  
E そしたら、少しはモテる？

A B (顔を見合わせて) : : それは、どーでしょー。  
E 聞いた僕が馬鹿でした。

下手から、顔半分に包帯を巻き、セーラー服のIが入ってくる。教室に人が残っているとは思わなかったらしく。

I あ。

E あ :

A : : 茉莉ちゃん。久しぶり。

I あ、うん。

E びっくりしたー。

B あんたはもういいから。

E え ?

B はい、もう帰って。

A じゃあね。

B ハバ・グツ・ずる休み !

E はいはい。

E、上手に去る。

A : : 元気 ?

I うん、まあ。

B また、 : : 学校 : : 来るんだよね。

I ううん。荷物を取りに来ただけ。

B 荷物 ?

I うん。もういなくなるから。

B いなくなる ?

A 転校 ?

I まあ、そんなようなもん。

A : : そっか。

B なんでセーラー ?

A 転校先の制服 ?

I 中学の時の。

B え ? なんで ?

I 高校のは : : 着れなくなったから。

A 着れなくなった ?

間。

B あのさ !

- I ん？
- B 茉莉ちゃんの携帯で、昼休みの歌、聞いたんだよね。
- I うん。白石先生の怒鳴り声も。
- A あー。
- B あ、それとうちのクラスって、どんどん…。
- I 知ってる。
- B あ、そう。それも？
- I 茉莉がね。でも、聞かなくても分かってたけど。
- A 分かってた？
- I 私にも降霊したから。
- A あ。
- B そうなんだ。あ、茉莉ちゃんも今日降霊した。
- I ！ そう。
- B 真田幸村だって。
- I 真田幸村…。
- A 世の中がみんな徳川家康になびいていく中で、滅んでいく豊臣方の味方をして最後まで戦い抜いた人。
- I 見捨てない人ってことね。なるほど。
- B でね、降霊した人たちの力を合わせて、今、私たち自由を手に入れようとしてんの。
- I 自由？
- B だってほら、うちの学校、やたら縛り付けられてる感じしない？
- I 縛り付けられてる？
- B 校則とか。スカートとかリボンとかいちいちうるさいし、化粧もできないし…。
- I あー、そういうの縛り付けられてるって言うんだ、みんな。
- B え？
- I 気軽に文句言えるのはさ、普通に「今」「ここ」にいていいからだよね。
- A 今、ここ？
- I なんの疑問も持ってないでしょ？ 学校に来られること。
- B どういうこと？
- I どんなにやりたいことがあっても、生まれた所が悪かったり、時間がずれたりしていたら、自分ではどうしようもないんだよね。
- J、下手から顔を出す。
- J 児玉さん、持ち物全部まとまった？ あら、あなたたち。
- A 先生、さやかさん、転校するって。
- J ああ、うん。おうちの事情でね。じゃ、職員室寄ってくれる？
- I はい。
- A さやかさん。
- I (ふりかえる)
- A 独眼竜政宗。

I …うん。

A 伊達政宗が降霊したんだね。

I ごめんね、せっかく呼ばれたのに役に立たなくて。どうもこういう運命なんだわ。

A その目は、降霊したせい？

I …うん。父親。

A え？

I じゃ。

A ……。

I、下手に去る。

B 伊達政宗？

A うん。東北を一代でまとめた、とつても優秀な武将。でも、なんととっても中央の覇権争いからあまりに遠い場所にいたし、東北をまとめた頃には秀吉の天下統一が目前だった。まさに、場所と時間に恵まれなかった人だよ。もつと早く生まれてたら、天下が取れた人だったかもしれないのに。

B ふうん。

J、下手から登場。

J あなたたち、早く帰りなさいよ。

A 先生、さやかさん…。

J うん。彼女、なんか言ってた？

A 自分には「今」と「ここ」がないって。

J ……。

A 先生？

J ごめん、ちょっと何も言えないのよ。

B あの右目、お父さんがって。

J ……児玉さんが言ったの？

B はい。

J ……飛べるように翼を鍛えるのが学校って、言ったわよね。

B はい。

J でも、そのための枝とか、巢とかは学校には用意できない。私が今思ってるのはそれだけ。

A ……。

B 先生。

J ……？

B 今日、お昼に余分な羽をむしって取るのが高校の役目って言いましたよね。

J ちよつときつい言い方だったかな。嘘じゃないとは思ってるけど。

B あれ聞きながら、私、思いました。

A ……？

J 何を？

- B たぶん、かなりの人が思ったと思います。
- J ?
- B 余分も何も、私の背中には、：翼なんか1ミリも生えてない。
- J 水島さん…。
- B 帰ります。
- J : 気をつけて。
- J、下手に去る。しばらくして、上手からKが入ってくる。
- K なんや、毎日遅までご苦労さんやなあ。
- A おじさんも。
- K ありがと。暗なるで気をつけて。
- B あー。
- K 何やね？
- B ちよつと聞いてもいいですか？
- K 俺あ、勉強なんか分からんに。
- B 勉強じゃなくて。
- K ? ほな何い？
- B んつと、おじさん、鉄工所にいたって言いましたよね。それって希望した仕事でした？
- K 希望つちゆうか、まあ、若い時から事情があつてねえ、家族の面倒みなあかなんだもんで。
- A 家族のため？
- K まあそう大袈裟なことやないけど、まあ、高校はあきらめたわなあ。
- B 中卒？
- K そういうことやねえ。
- A じゃ、仕事は辛かったですか？
- K そりゃあ、親方は厳しかったし、いろいろあったけど、ま、ほんでもだんだん出来ることが増えてくつちゆうのは、楽しかったつちやあ楽しかったかなあ。
- A なら、そこがだめになつたつちやあというのは。
- K ほりゃさびしかったに。家(うち)がのうなつたようなもんやわ。
- A 辛い人生ですよね。
- K そう重たあ言い方されるとなんちつてええか分からんけど、辛いことは辛いわな。：ほんでもねえ。
- A はい？
- K この年になると、まあ、その辛いのも自分の一部つちゆうかね。もちろん、楽にはなりたいたいけども、なんちゆうや、ほんでも自分以外のもんになりたかつたかつちゆうと、そうは思わんわなあ。
- B . . .
- K こうやつてかわいい子としゃべれたりするし。
- A えー。
- B おじさん、意外とチャライ？
- K なんや、それは？ まあ、はよ帰らんと。気をつけて。
- A B さよなら。

K さよなら。

青転。生徒たちが登場してくる。溶明すると、翌日の教室。中央にB。

B じゃ、みんないい？ 昨日は白石先生のせいで、なんか変な感じで終わっちゃったけど、今日は、作戦その2を展開しまーす。

D 作戦その2？

B そう。今度は掃除の時間に…。

C なーんかなー。

B え？

C 一晩おいたら、なんか冷静になっちゃったなー。

D うん、言ってる。

F 冷静？

C 室長もそうじゃない、肇なんか「きゃー」とか。

F ぐわー、二度とそれ言わないで。封印したい。

H も身もだえしている。

D 私らもだつて。

G 絶対あれ嘘ついたよね。

C 今日休んだのが、何よりの証拠。

H だね。

B 龍馬は嘘だとしてもさー。

C 自由っていうのも、そんな頑張つて何とかしたいって感じじゃない？

B え？

D それよ、それ。

B ちよつと！

G なんか戦つてまで手に入れたって思わないよね。

D まさにそんな感じ。

B 何それ。戦国武将が言う言葉？

F しょうがないじゃん、基本は今の高校生なんだから。

C そうそう。現代っ子は争いを好まない。

B 争いを恐れててどうする！ 若者が。

G どうせあと1年ちよつとで卒業だし。

F もめごと起こして、進路に影響してもねえ。

G あ、それあるある。

B 待つて待つて。みんな本気で言ってる？ 自由ってそんなもん？

C っつか、冷静に考えたら、そこそこ今も自由じゃん。

B はあ？

D あ、あのさあのさあ、なんか降霊したからさあ、こう、なんていうの？ 肩が軽くない？

- H 分かる！
- D 茉莉ちゃんも？
- H なんていうかなあ、自分じゃない部分があると、百パーセント背負い込まなくてもいい感じ？
- B えー…。
- D さすが、うまいこと言うなあ。
- F それ分かるね。
- D なんかく、自分だけで自分じゃなくて、気が楽っていうか。
- G それそれ。ま、これで十分じゃないの？
- B どうしちゃったの？ みんなの中の戦いの血はなんとも言ってないの？
- C 何それ。千夏こそ、本気で言ってるの？
- B みんなには、これ以上はないっていう力が備わったんだよ。本当に欲しいもののために、今なら戦えるんだよ！
- G 熱いなあ…。
- C てか、暑苦しい。
- B もういい！ 佳乃！
- A え？
- B そこからありったけ箒出して。
- A は？ どうすんの？
- B 二人だけでも作戦を執行する。
- A 作戦って何よ。
- B 「超箒的作戦」
- A 何それ？
- B とにかく急げ、パレード！
- A なんで私が…。
- A は掃除道具入れを開ける。箒を出そうとすると、中から出てきたものが足下を走る。

- A きゃーっ！
- B どうした？
- A ぐきぶり！
- C ぐきぶり？

皆、総立ちになってきゃーきゃー逃げ回る。

- G 飛んだーっ！

さらに激しく逃げ回る。飛んだぐきぶりは、Aの目の前の机に着地。(ニ、スローモーションでも可)その直前にAは苦しい顔をしていたが、着地したぐきぶりをぱんつと踏みつける。青転して中央にサス。

- A (見得を切りながら) 殺してしまえ！ ほとーとぎーすーっ！

間。

皆：信長？

照明戻る。A、ゆっくりと皆を見回し、スリッパを脱いで、その裏を見て投げ捨てる。

A 草履の替えを持って。猿っ！猿はおらぬか！

G ははっ、これに控えております。

A 草履が汚れた。替えを持って。

G はい、たしかこちらに。(かばんを開いて中を探る)

A なんじゃ、ふとこで温めておらぬのか。

G 御館様、(ぬいぐるみ的なフカフカスリッパを取り出す。)今はこのように良きものが。

A (履いてみて) おおっ、これは良いのお。

G お気に召しましたか？

A うむ。さすがは猿じゃ。でかした。

G ははっ。

C カンナ。

G 何？

C 何じゃないよ、どうしたの、そのしゃべり方。

G しっ！御館様怒らせたらしゃれにならないから。

C どういうこと？

D でも、信長来ちゃったら、心強いよねー。

F 究極の自由人って感じ？

D だよねー。

B じゃあじゃあ？

C うん、作戦つてのに乗っかってもいい気がしてきた。

D 私も。

B そう？

C 佳乃、よろしくね。

A ：わしに言うておるのか？

D もうさすが歴女。なりきってるねー。

G ちよっと、そうじゃないって。

C でも、そのしゃべり方、キャラに合っていないから。

B ま、頼りになりそうな雰囲気かもしてるけどね。

F うんうん。

H 佳乃ちゃん、意外とノリいいねえ。

A 何を言うておるのかさっぱり分からぬ。佳乃とは、このおなごのことか？

C ちよっとー。

D そこまでいくと悪乗り。

B そうそう。  
A 猿。  
G はっ。  
A こやつら切れ。  
G へ？  
A 目障りじゃ。  
G あ、さすがにそれは…。  
A わしに逆らうか！ そこへ直れ！ 一緒に切り捨ててくれる！ 刀はどこじゃ？  
G いや、ちよつとお渡しするわけには…  
A わしにまで刀狩りをする気か！  
G いえ、今はその、銃刀法つてのがあつて…。  
A もうよい！ これでたたきのめしてくれる。

散らばっていた箒の1本を拾い上げて、構える。皆も、一斉に拾って構え、一触即発のにらみ合い。

H これってさあ。  
B うん、佳乃、完全に乗っ取られてるね。  
C どういうこと？  
H 私たちみたいに、戦国武将がちよつとブレンドされたんじゃないなくて、完全に人格支配されてる。  
C げっ！  
F さすが信長だねー。  
H いや、さすが歴女というべきか。  
D 身も心も歴史に捧げたってか？  
A 誰から来る？ いっぺんにまとめてでもよいぞ！

緊張が高まる。すると、Gの携帯が鳴る。気の抜ける着メロ。(『暴れん坊將軍』とか) Gが出る。

G え？ あーごめん。ちよつと今無理。あとでね。

G、携帯を切る。その様子を見ていたAが、

A 猿。  
G あっ、はい？  
A 今、何をした。  
G あっ、ごめんなさい。ちゃんと電源切るんで。  
A 何を言っておる。その板きれ、それで貴様、何をした。  
G あ、3組の圭子から電話が…。  
A 見せよ。  
G えー？ 預かり指導？

A、Gから携帯を受け取って眺める。耳元で振って。

A 今、音がしたか？

G あ、着メロですけど…。

A その後、何かしゃべったな。

G だから、3組の圭子と…

A この中にその圭子が入っておるのか？

G ポケモンじゃあるまいし。となりの部屋に。

A 何？ ここにおらぬ者と話ができるということか！

F さすが信長、飲み込みが早い…。

A 猿。さすがは、あつという間に墨俣城を築いただけのことはある。不可能を可能にする奴じゃ。

G ありがたきお言葉。

C あー。

A ん？

C みんな持つてるんだけど。

A 何？

皆、携帯を取り出す。

A なんと！

C 会話だけじゃなくて、文字も送れるよ。

D 音楽も聴けるし。

F 写真も撮れるし。

A これは！ 南蛮渡来の道具じゃな。おまえたち、皆バテレンか？

D バテレンって…。

B バテレンは私です。

A ？

B わたしが皆さんを、この時代に呼び寄せました。

A 何の用があつて？

B 自由です。自由を手に入れるための力を貸してもらったためです。

A 自由？

C もっと自由だと思って入った高校はがんじがらめの毎日。

D 服装はチェックされるし、化粧もできない。

G つまんない授業を延々と聞くばかり。

F 微妙な人間関係にも縛られてる。

H 自分のせいじゃないのに道をゆがめられる子もいる。

B わたしたちの人生には勝手に線が引かれているんです。だから真っ白な自分の書きたいものを書きたい

ように書けるノートが欲しいんです。

A なぜわしなのだ？

B え？ あなたほど自由に生きた人もいないと思うけど。

A はっ！ 何を誤解しておる。わしは天狗ではない。空も飛べぬし、千里眼もない。寿命もあれば…。  
B そういう自由じゃなくって。超能力者の話なんかしてない。  
A 何を言っておる。おまえたちは、あの板ぎれでどんなことでもやっているではないか。  
B それは…。  
A あんなことまで出来る者がさらにどんな「自由」を望むのか、わしにもさっぱり分からん。

間。

A そもそも自由を手に入れるということが、どんなことか分かっておるのか？

B はい。それは。

A 本当か？

B 私は天草四郎時貞。

A 天草四郎。

B 寛永年間のこと、私の故郷島原では飢饉がうち続きました。それでも情け容赦なく重い税がかけられ、生きていけなくなった我々は、キリスト教の下に一揆を起こしました。そして、原城（はらのじょう）という城に立てこもり、大切な教えを守るため、幕府軍十二万余りと対峙したのです。

照明が変わる。Hが上手サスの中で「翼をください」を朗々と一番の終わりまで歌う。下手サスの中で、AとBが正面を見ている。その間の青い空間では、SSを横から受けて残りのメンバーが島原の乱の農民になる。必死の形相で幕府軍に立ち向かい、攻撃をするが、一人一人と撃たれて倒れていく様子を、無言のソローモーションで演じる。それを見ている内に、Bの顔がどんどん泣き顔になっていき、崩れ落ちてひざまずく。Aはまっすぐに立って最後まで無表情で見届ける。やがて上手のサスが消える。（歌い終わったHはその場で倒れる？）死屍累々とした中央の様子を見ながら、下手サスの中でAとBが会話する。

B 我々は四ヶ月にわたって籠城をしましたが、ついに落城。城内の者は老若男女の別なく全滅したのです。

溶明。Aはゆっくりと中央に移動し、死体の中をゆっくり歩き回りながら語る。

A なぜここまでして戦う？

B キリスト教は島原の民にとって奇跡の御技（みわざ）でした。その教えは、私たちのどうしようもない現実を変え、自由を与えてくれるものでした。それが奪われたのです。戦わないでいられましようか。  
A 分かっているようだな。

ME。青転。トーマン上手からのみ当たる。Aが中央に立って語る。倒れている者たち、語りの間に、ゆっくりと起き上がって亡霊のようにAにまわりつく。

A お前の言うように、わしが「自由」に生きたのだとしよう。その自由のために、わしは親に疎まれ、家臣に軽んじられ、兄を殺し、民の心よりどころである寺を焼き払った。わしを憎しみ、恨み、呪う者たちが天下に満ち満ち、周りの者も、ただひたすらわしを恐怖し、最後に自らとりたててやった光秀の謀反によって、業火の中で死んだのだ。誤解をするな。（亡霊たちを振り払う）わしは後悔など微塵もし

ておらん。わしの求めたものの代償を払ったに過ぎん。

照明戻る。振り払われた者たちは、溶明と共に生徒に戻る。

C 代償？

D 求めたものの…。

A おまえたが何を求めておるのか、わたしにはいまひとつ分からぬ。理不尽は世の常、思い通りに行くことなど、ほんのひとつかけらしかあるまい。ただ、覚えておけ。おまえたの先祖は、例外なくあの戦乱の世を生き抜いた者ばかりなのだということ。

F 戦乱を生き抜いた…。

A おまえたは、全員その末裔なのだ。忘れるな。(帳面に引かれた線がどうしても気に入らぬなら、従う必要がどこにある。)おまえたの戦は、おまえたにしか戦えぬ。

G わたしたちの戦。

A 自由を求めるなら覚悟を決めることだ。鳴かぬほととぎすを自分ならどうする？

H 鳴かぬなら…。

B 鳴かぬなら…。

A 四郎とやら。武器らしい武器もなしに戦ったおまえたの覚悟、我らの末裔にもきつと。

B ……。

A 案ずるな。…皆！ 帰るとしようぞ。

全員が正面を向き、やや上を見上げる。ゆっくりと暗転すると、武将たちの立っていた所に光る玉が浮いている。それが一つまた一つと消えていく。

溶明。翌日の場面。皆が教室にいて話している。Bは席で紙を見つめて考えている。

C 書いた？

G まだ。

D ねえ、これって2年生最後なんだよね。

C 由紀、昨日もそれ聞いたじゃん。

D だってこれ、最終決定一歩手前ってことじゃん。

G いやいよ3年かあ。

F 茉莉ちゃんは決めてる？

H 文学部かなーって。

F いいなー。迷わない人は。

H そんなことないって。志織ちゃんは？

F それがねー…。

C (いきなりEの紙を奪って) 見ーせてっ！

E あ！ まあいいけど。

G あれ？

D あわてないねえ。

E 恥ずかしかることもないし。

- D 何何？
- C へえ、看護師志望なんだ。
- E 男手が足りないって言うし。人の役に立てるのっていいかなって。
- G けっこうちゃんと考えてるんだ。
- E 男ですから。
- D へーっ。
- C なんかさあ。もう浮かれたこと言ってる場合じゃないよね。
- G 就職かあ。
- D 面接、何言ったらいいんだろ？
- C 服装とかどこまで見られんのかなあ。
- G もう一気に化粧とかスカートとか言ってる場合じゃなくなったよねー。
- C ほんとほんと。

気付かない内に、ME入っている（インストの『翼をください』とか）。寂しそうに皆の様子を見ているB。後ろからAがぼんと背中を叩く。Aがうなづく。決心した顔で、Bが進路希望用紙を書く様子を見せながら幕。

#### 参考・引用

- 書籍 「もう一度学びたい戦国史」 菊池正憲著 西東社 06年刊  
「ライバル対決で読む日本史」 菊池道人著 PHP研究所 06年刊  
「この人物・この事件 よくわかる日本史」 中山良昭監修 早稲田日本史フォーラム 00年刊  
「人物・遺産でさぐる日本の歴史8 天下統一への道 戦国・安土桃山時代」 古川清行著 小峰書店 1998年刊  
「島原の乱 キリシタン信仰と武装蜂起」 神田千里著 中公新書 05年刊  
「戦国15大合戦の真相 武将たちはどう戦ったか」 鈴木眞哉著 平凡社新書 03年刊  
「図解説戦国史」 源城政好編著 ナツメ社 05年刊 「早わかり戦国史」 外川淳編著 日本実業出版社 09年刊  
「時代考証おもしろ事典」 山田順子著 実業之日本社 06年刊  
「日本の歴史 八 戦国時代 戦国の活力」 山田邦明著 小学館 08年刊  
歌 「翼をください」 作詞 山上路夫 作曲 村井邦彦 「桜坂」・「はっ恋」 共に作詞作曲 福山雅治  
ドラマ NHK大河「龍馬伝」 福田靖脚本  
落語 立川志の輔「八五郎出世」